

今後は國家存立の最も大切な意味を利益の掠奪に置かずして、精神文化の競争に置くことにならなければ成らぬのであります。

八二

そこで一番大事な思想なり精神の文明はどう進んで行くかといへば、あらゆる思想を統一大成しなければならぬ。不純な文明は是れが防止、撃退、絶滅を圖るけれども、採つて用ふべきものは皆その思想を豊富にして、いろ／＼の思想が各々處を得て發達するやうにして參らなければならぬ。之を貧弱にして自分の思想と異なるものは悉く拒斥する、己れが淺薄なる思想で居て高き思想を罵るといふやうな事があつてはならない。而して物を統一するといふことは、それだけの高き見識に上らなければ出來ることではない、軍曹をして旅團を指揮せしむることは出來まい、無理にやつた所が戦は敗けてしまふ、旅團を指揮する者は少將でなければなるまい、師團を指揮する者は中將でなければなるまい、陸海軍の全體を指揮する者は大元帥である。今日の多くの思想を統率するのに、如何なる主義からでも統率が出来ると思ふのは、戦をする

のに誰を頭首に置いても宜い、一等卒でも勝隊を指揮することが出来ると思つて居ると同じことである。精神の文明を統一大成するに就ては、如何なる高き思想、如何なる豊富なる思想を中心に載いたならば、その全體が統率されるかと云ふ事を考へなければならぬ。同じ思想でも統率の方法が悪かつたならば、却つて害をなすのである。彼の波蘭が今の靈西亞即ち過激派の爲にやられて、本年の五月頃は始ど亡國の災ひに瀕して居つたのである、所が聞く所に依れば佛蘭西は波蘭が亡びたならば露獨境を接して獨逸の復興が非常に早くなる、それでは這の大戦争をやつて獨逸を弱らした甲斐がないといふので波蘭を援ける事になつた、援けると云つても別段兵糧を送つたのもなければ、武器を送つたのでも、兵隊を送つたのでもない、唯だ大戦に經驗ある才能ある所の良將軍を參謀の名に依つて波蘭に送つて、戦の方針を一變した時、直に波蘭は勝ち軍となつて、露西亞の軍を兩斷して二師團三師團といふ多數の捕虜を得て、國境を越えてドン／＼露西亞に攻入つた、亞米利加の大統領も「さう行つてはいかぬ

八三